

グローバル人材育成のためのビジネス日本語教育

-ある日ビジネス日本語を教えてと言われたら-

武蔵野大学大学院 堀井恵子

1. はじめに

グローバル化の進展とともに国と国の間をつなぐ人材のニーズが高まり、日本/日系など日本と関係のある企業からは日本語を使って仕事を遂行する人材の育成が要請されている。一方、日本語学習者にとっても、身に着けた日本語を使ってキャリアを積みたい、具体的には卒業後、日本と関係のある企業に就職したいという強い希望がある。しかし、学習者が日本語を使って仕事をしていくためには、従来求められていた日本語能力だけでは十分ではない。そこで、ビジネス日本語(BJ)教育が開発されているが、ニーズの高さの割にはビジネス日本語教育を研究し、教育実践をする教師はまだ少ない状況である。その理由の一つに、ビジネス日本語教員養成が十分に行われていないことがあると思われる。

本研修会では、現在日本語教育に携わっている先生方が、ある日「ビジネス日本語を教えて」と言われたら、「はい」と答えられるようになるために必要な考え方と方法を時間の許す限り紹介し共有した。

2. 研修の流れ

1. ビジネス日本語のニーズ、台湾のニーズ
2. ビジネス日本語教育の内容
3. ビジネス日本語教育のコースデザイン例
BJ 基礎と BJ 応用、科目 3 本柱
4. ロールプレイ作成ワーク
5. PBL(プロジェクト型学習)
6. ビジネス能力とは?
7. 異文化コンフリクト対応
8. ビジネス日本語の評価
9. 日本語教師の役割

3. 研修内容

具体的には研修会を終えてからまとめなおした最終資料を参考にされたい。

主なポイントとしては、

- ①コミュニケーションとインターアクションのための授業には現場の学習者に合わせた教材のカス

2014 年度第3回日本語教育研修会 報告書

タマイズが必要である。そのためにはマニュアルに頼らない教師の自律性が求められる。

②ビジネス日本語教育のゴールをグローバル人材の育成とし、また、コースや科目も到達目標を立ててコースデザインをすることが重要である。そのために、Can-do の活用が有効である。

③ビジネス日本語教育は表現形式やスキルだけでなく、問題発見解決能力、異文化調整能力の育成を含めた活動による展開が必要である。

④ビジネス日本語教育を便宜的にBJ基礎、BJ応用と分け、マニュアル対応ができる部分の授業展開とロールプレイやプロジェクト型学習によって身に着ける応用部分の授業展開について紹介した。

⑤BJ教育の3本柱として、異文化調整力、問題解決力育成を含めた口頭表現(対面/非対面の待遇表現・配慮表現)、文書表現(文書読解⇒報告書・企画書などの作成、総合によるアプローチを紹介した。

⑥研修会は参加型で受講者は随時発言を求められた。また、ワークを取り入れ、ロールプレイ作成はすべての会場で、PBL案作成は台北会場2日目に行うことができた。

4. まとめ

ビジネス日本語教師には従来の日本語教師の能力にプラスして、

①国際社会、経済などBJを取り巻く環境を理解、学習者の就職/就業に関する項目について十分に理解し、必要に応じてその能力を身につけた上で、コースデザイン、シラバスを作成、学習者にカスタマイズした活動教材を開発・実践する。

②ロールプレイやPBLの授業展開のためのファシリテーションができる。

③学習者を中心とした就職/就業支援のネットワーク(シニアサポーター、BPゲスト、マーケティング、アカウンティングなどのビジネス科目担当者、キャリア開発教職員)を構築する。

④BJ実践について研究をする。

ことが、求められる。

忙しい毎日、このようにBJ教育は大変で面倒ではあるが、学習者にとって、社会にとって役立ち、担当者にとっても大いに学びになるので、BJ教育に取り組むことを勧めたい。取り組んでみればとても面白いものである！

5. おわりに

非日本語母語話者である先生方がたくさん参加され、積極的に取り組んでくださったことで、海外のビジネス日本語教員養成に必要なものをあらためて認識することができた。アンケート結果

2014 年度第3回日本語教育研修会 報告書

からは満足な受講者が多かったことがわかったが、時間的には1週間程度はかかる盛り沢山の内容なので、補足の機会を考えたい。

●参考文献

- ・経済産業省人材参事官室(2007)『外国人留学生向けの研修のあり方について』
- ・海外技術者研修協会(2007)「日本企業における外国人留学生の就業促進に関する調査研究」報告書
- ・赤木弥生・堀井恵子他(2013)「コンピュータ適応型ビジネス日本語テストの研究開発—ビジネス場面におけるコミュニケーション能力を測る問題項目の作成」平成 25 年 11 月第7回日本語教育学会研究集会(島根・島根大学)予稿集
- ・経済産業省(2012)『留学生のためのビジネス日本語シリーズ—人財』
- ・堀井恵子監修(2009)『BJT ビジネス日本語テストスコアアップ模擬テスト』アルク
- ・堀井恵子(2010)「プロジェクト型ビジネス日本語教育の意義と課題」『武蔵野大学文学部紀要』第 11 号
- ・堀井恵子(2012)「海外におけるビジネス日本語教育の—グローバル人材育成の新たなパラダイム」『21 世紀の世界日本語教育・日本語研究—中日両国国交正常化 40 周年記念論文集』、高等教育出版社
- ・堀井恵子、向山陽子(2013)「学習目標達成度測定のためのビジネス日本語 Can-Do statements の開発」『日本語教育学会春季大会予稿集』pp.313-314
- ・堀井恵子(2013)「ビジネス日本語教育におけるシニアサポーター活動の意義と課題」Global Communication 第 2 号 pp77-88
- ・堀井恵子(2013)「留学生の就職とビジネス日本語教育の現状と課題」ウェブマガジン『留学交流』2013 年 10 月号 Vol.31JASSO、pp.1-10
- ・堀井恵子(2013)「グローバル人材育成としてのビジネス日本語教育のスコープとタクティクスを考える」日本語教育学会 SIG ビジネス日本語研究会第 11 回研究会
- ・堀井恵子(2014)「J-GAP 中日アーティキュレーションプロジェクトにおける Can-do の活用」J-GAP シンポジウム(香港—日本プロジェクト)@国際交流基金日本語センター